

# 目 次

はじめに

## 第 I 部 事物と事態に対する話し手の捉え方

第 1 章 存在文の意味解釈	2
1. はじめに	2
2. 存在文の分類	7
3. 「迂言的」タイプの存在文の解釈	10
3.1. 「there 挿入」( <i>there</i> -Insertion)	10
3.2. 状態動詞の場合	11
3.3. まとまりの可能性	11
3.4. 現在完了形	12
3.5. 進行形	14
3.6. <i>be</i> 動詞の進行形	15
3.7. 未来表現	17
3.8. 単純未来の <i>will</i>	17
4. 「定性制約」とそれに対する反例	18
4.1. 定性制約	18
4.2. 定性制約に対する反例	19
5. 普遍量化詞	23
6. 述語制約	25
7. <i>some</i> / <i>many</i> の多義性	31
8. 「基数性」( <i>cardinality</i> ) 対「量化」( <i>quantification</i> )	33
9. 存在文と知覚構文	36
10. 英語教育における存在文	37
11. 終わりに	40
[Further Reading]	46

第2章 日英語における知覚構文の意味解釈	47
1. はじめに—知覚動詞—	47
2. 自発的知覚と行為的知覚	53
3. 英語における自発的知覚動詞と行為的知覚動詞	55
4. 日本語における自発的知覚動詞と行為的知覚動詞	57
5. 英語における自発性と完結性	60
6. 継続性の条件	61
7. 英語における自発動詞の原則	65
8. 英語における自発文と内的描写	68
9. 日本語における自発性と完結性	70
9.1. 日本語における「自発動詞の原則」	70
9.2. 日本語自発文における「瞬間性」と「反復性」	75
9.2.1. 瞬間性	75
9.2.2. 反復性	77
10. 終わりに	79
[Further Reading]	82

## 第II部 補文・従属文と話し手の心的態度

第3章 主張的述語と非主張的述語の意味解釈	84
1. はじめに	84
2. 主張的述語	85
2.1. はじめに	85
2.2. 補文前置可能性	86
2.3. 否定辞繰り上げ	88
2.4. 文代用形 so と it	90
2.5. 否定された弱主張的述語 don't think と法助動詞 need との共起を めぐって	91
2.6. 主張性と文副詞との関係	96
3. 日本語の認識述語「思う」をめぐって	97
3.1. 人称制限	97
3.2. 「思う」の意味	100
3.3. 真偽性	103
3.4. 文副詞類による修飾	105
4. 終わりに	106
[Further Reading]	106

第4章 分詞構文の意味解釈	107
1. はじめに	107
2. 分詞構文の意味・用法の分類	108
3. 分詞構文の意味論	111
3.1. 分詞節の述語のタイプ	112
3.2. 主節のモダリティ	113
3.3. 主節の出来事の頻度と総称性・習慣性と分詞節	117
3.4. 分詞節内の完了形	119
4. 分詞構文の語用論	121
4.1. 分詞節と主節の順序関係	121
4.2. 一般常識	122
5. 終わりに	123
[Further Reading]	126
第5章 補文標識の意味解釈	127
1. はじめに	127
2. 補文標識	128
3. 補文標識 that	131
4. 補文標識 for	138
5. Bresnan による三つの問題	147
5.1. 固定主語制約	147
5.2. 「主格主語 + 不定詞」構文	150
5.3. 「対格目的語 + 不定詞」構文	153
6. expect の多義性	159
7. 終わりに—まとめと今後の研究課題—	160
7.1. want と long (for)	160
7.2. VP 補部標識としての to	164
7.3. 形容詞の三つの型	167
[Further Reading]	173
第6章 補文の意味解釈	174
1. はじめに	174
2. 補文と COMP	177
3. WH 疑問文の解釈	181
3.1. 主文の場合	181

3.2. 補文の場合	187
4. 感嘆文の解釈	194
4.1. はじめに	194
4.2. 主語・助動詞倒置	194
4.3. “what a/an (Adj) N” 対 “what N”	195
4.4. 主文述語の違い	197
4.5. 程度性	198
4.6. 強意副詞	198
4.7. 前提	199
4.8. 否定極性項目	201
5. 否定倒置文の解釈	203
6. so/such 強調文の解釈	206
7. 祈願文の解釈	207
8. 終わりに	208
[Further Reading]	210

## 第7章 不定詞句の意味解釈

### — 繰り上げ構文を中心として — 211

1. はじめに	211
2. 繰り上げ構文の構造	213
3. seem の繰り上げ構文に課せられる条件と原則	217
4. seem の実例の解釈	220
5. hope to と seem to	223
6. 予測述語 likely の繰り上げ構文と前望性の条件	224
7. 認識的法助動詞 must と繰り上げ構文を取った seem との平行性	227
7.1. 認識的 must の多義性と非未来性条件	227
7.2. 習慣性	229
7.3. 因果性	230
7.4. 条件性	233
8. 「に違いない」、「らしい」と「はずだ」	234
9. 終わりに	235
[Further Reading]	236

## 第8章 関係節の意味解釈 238

1. はじめに	238
2. 英語関係代名詞の先行詞の定・不定	241

3. 関係節の基本的な意味	243
4. 関係節の構造と意味解釈	245
5. 関係節と同格節	250
6. 関係節における Pied Piping	253
7. 関係代名詞の「長距離移動」	256
8. 関係節の内容と先行詞の定・不定	258
9. 終わりに	266
9.1. まとめ	266
9.2. 実例の観察	267
9.3. 今後の研究に向けて	268
[Further Reading]	270

### 第 III 部 モダリティと言語行為

#### 第 9 章 感情的 should の意味解釈 272

1. はじめに	272
2. 感情的モダリティにおける評価主体	276
3. 感情的 should と仮定法現在代用の should	279
4. 感情表現の条件と評価主体	280
5. 「感情表現の条件」の問題点	281
5.1. 感情表現が should を含む節と隣接していない場合	281
5.2. “to think” 構文に導かれた省略的な感嘆文	283
5.3. 主文（における感情表現）が省略されている場合	283
5.4. 疑問詞を伴って should が主文に現れている場合	284
5.5. 主文の内容が文字通りには感情表現とは言えない場合	284
5.6. 感情表現が否定されているか、あるいはより冷静な内容の表現の場合	285
5.7. 主文の述語が感情的な述語ではない場合	287
5.8. 主文に感情表現が全く存在しない場合	289
5.9. 主文における表現の感情性をめぐる問題	289
6. 感情的 should や「なんて」に課せられる原則	290
6.1. はじめに	290
6.2. 「心理的衝突の原則」	291
6.3. 「現存性の条件」と「確実性の条件」	292
7. 肯定・否定・疑問文脈における感情的「なんて」	294
8. 終わりに	295
[Further Reading]	297

## 第10章 日英語文副詞類の意味解釈…………… 298

1. はじめに……………	298
1.1. 目的……………	298
1.2. 副詞類の分類……………	300
2. 先行研究とデータ……………	305
3. 日英語文副詞類の分類……………	310
3.1. 英語文副詞類の意味分類……………	310
3.2. 日本語文副詞類の意味分類……………	313
4. 日英語文副詞類の派生……………	316
4.1. はじめに……………	316
4.2. 英語文副詞類の派生……………	317
4.3. 日本語文副詞類の派生……………	321
5. 日英語文副詞類の統語論的・意味論的原則……………	324
5.1. はじめに……………	324
5.2. Q (=疑問) の作用域の原則……………	324
5.3. Neg (= (文)否定) の作用域の原則……………	327
5.4. 文照応の指示の範囲の制約……………	329
6. 日英語文副詞類の制約の説明原理を求めて……………	332
6.1. はじめに……………	332
6.2. 日英語文副詞類と「機能的成層」のレベル……………	332
7. 終わりに……………	335
[Further Reading]……………	335

## 第11章 let's 構文の意味解釈…………… 337

1. はじめに……………	337
2. 3タイプの let's 構文……………	338
3. タイプCの let's 構文の統語的特徴……………	342
4. 「us 縮約」規則の問題点……………	345
4.1. はじめに……………	345
4.2. 「us 縮約」規則……………	345
4.3. 否定命令の don't……………	346
4.4. let's + NP……………	346
4.5. 動詞句削除……………	347
4.6. let's ... yourself……………	347
4.7. まとめ……………	348
5. 非助動詞成分としての let's……………	348
6. 文不変化詞としての let's……………	349

7. 終わりに .....	352
[Further Reading] .....	353
あとがき .....	355
参考文献 .....	383
索引 .....	409